

# 病害虫発生予察指導情報

## (ブロッコリー病害)

令和元年10月31日

### 1 情報の内容

10月28日現在、現地調査ほ場において、ブロッコリーべと病、黒すす病の発生量が平年に比べてやや多くなっています。今後の気象条件によっては発生量が多くなることが予想されますので、防除を徹底してください。

### 2 情報の根拠

- (1) 10月28日現在、ブロッコリーべと病の発生ほ場率は、28.6% (平年: 11.7%) と平年に比べてやや多い発生量となっている。  
また、ブロッコリー黒すす病の発生ほ場率は、85.7% (9月下旬: 42.9%)、平均発病度1.7と発生程度は低いものの、発生ほ場数が増加している。
- (2) これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、両病害ともに今後の発生量はやや多いと予想される。

### 3 防除上注意すべき事項

#### [ブロッコリーべと病]

- (1) 葉の発病は、下位葉から始まり、葉裏に汚白色で霜状の病斑を生じる(写真1)。
- (2) 病原菌が組織内部にまん延するため、栽培期間が長い秋冬どり作型では、花蕾、花茎の表面や組織内が黒変するべと病(組織内べと)が発生することがある(写真1)。
- (3) 花蕾の被害防止に、出蕾開始までの基幹防除(フォリオゴールド、レーバスフロアブル)を徹底する。また、追加防除薬剤には、ピシロックフロアブル(収穫前日まで、2回以内)等がある。

#### [ブロッコリー黒すす病]

- (1) 本病は、台風や大雨後に被害が拡大することが多い。
- (2) 葉の病斑は、花蕾への伝染源となるため、発病が認められる場合は、防除を徹底する。
- (3) 散布薬剤は表1を参考にする。

---

\*いずれの病害も、薬剤の収穫前日数に注意して防除を行う。



写真1 ベと病の症状（左：葉裏、右：花蕾）

写真2 黒すす病の症状（葉）

表1 ブロッコリー黒すす病の防除薬剤一覧（農薬の登録内容は令和元年10月23日現在）

RAC コード*	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
F7	アフェットフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内
F11	アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前まで	3回以内
F7、F11	シグナムWDG	1,500倍	収穫7日前まで	2回以内
F7	パレード20フロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内

\* RACコード（農薬の作用機構分類）が同じであれば、同じ系統の薬剤である。